

## 弱視の児童生徒の学習環境をよくしていただくために

吉本幸子

### I. はじめに

娘は現在県立高校の3年生で、先天性緑内障・無虹彩症、視力としては右が0.1・左が明るさを感じるだけでお友達の顔はかなり近づかないと見えません。表情を伺うことができず、自分の発した言葉でお友達は嫌な気持ちになっていないだろうかといつも気を回して生活をしています。でも見えにくさを理解し自然にサポートしてくれるお友達もでき、クラスのお客様ではなく一員となろうと頑張っています。

### II. 見えにくさの理解の得にくさについて

娘の視力は片目0.1です。普通の方からみられると視力が低いほうになり全盲に近い方からだと良く見えるほうになります。娘を育てていく上で避けて通れなかったのは見えにくさの理解を得ることでした。大人子供に関係なく 何で・どうして と尋ねられ言い訳のように説明をしなければならぬことがとても苦痛でした。また、慣れた場所や慣れた人達と一緒にいると娘が目の悪いことを忘れてしまうと言われます。娘は心無い人から 見えてないふりをしている、普通に歩いたり本を読んだりしているのだから見えているとからかわれることもありました。確かに見えていますが見えていないのです。ここの処をご理解していただくのがとても難しいのです。弱視とは生活ができるくらい見えるようになる効率が無いということです。見え方は10人いれば10人・100人いれば100人と違う見え方をしています。

外を歩いている風景の中から色々な情報・知識を得ることができます。私は娘を連れて歩くときには単眼鏡でなるべく風景を見せるようにしてきました。意識をさせる・確認をさせる事ではやくた風景の中に興味を持たせ社会のルールや面白さを教えてきました。

また、中学校へ受験の相談に伺った時には弱視であることを伝え弱視の説明をさせていただきご理解を頂きました。

6年生からは1学期の初めに5分間、本人から自分の目の病気のこと、自分のできることできないこと、手伝ってもらいたいことのお願いごとなどをお話しするようになりどのくらい見えるの?と聞いてくる生徒さんもいたので先生や親からの話ではなく本人から話す良いチャンスだったと思いました。

弱視の当事者・家族だけではこの見えにくさというものを多くの方々にご理解を頂くにはあまりにも力不足です。皆様からも弱視の子供たちの見えにくさを多くの方々に伝えていただければ幸いです。

### III. 個人個人にあった文字の大きさの必要性

娘は生後8か月から週一回岡山盲学校の支援を受け単眼鏡を使う訓練のためにひらがなを3歳ぐらいから読めるようにしました。盲学校では見たいものは道具を使えば見えるということをお教えたいただきました。就学の前の年は単眼鏡で黒板を見て文字をノートに写す・板書写しや定規を使って決まった長さの線を引くことなど授業で困らないように訓練をしてくださいました。

絵本は色数が少なくはっきりしていて文字の大きなものを与えていました。好んでいたものはミッフィーです。本を読むのにも読む文字の大きさは本によって違います。また、小さい文字が読めるからと言ってそれに合わせて本を読んでも長続きはしません。

ルーペ等の補助具を使っての読書も大切です。視覚障がい者のために用意をされている書類は社会生活の中ではほとんどありません。タブレット等で容易に文字の大きさを変えて見ることのできる

ものも増えてきましたが実際の必要とされているものの中ではわずかなものです。ル-ハ°を使って人並みの速さで文字を読むことは多くの文字を読んで徐々に習得していけるものです。弱視の子供達の中には途中で読むことをあきらめる子がいます。まずは文字・文章に親しみ、本を読むことは楽しいと感じさせる。そのためにも低学年から文字を読むことに興味を持たせることがとても大切だと思います。それぞれに合った教科書の文字の大きさを選んであげることです。時間をかけて読みやすいものを探す、大切なのはどの文字の大きさが一番楽に本を読むことができるかです。楽しいとわかればル-ハ°や拡大読書器を使いどんどん本や新聞を読むようになります。実際に娘は小学校1年生の2学期くらいから年間100冊は本を読んでいた。本読んで本読みカードに書き込み先生に提出すると褒めて頂いてまたそれが励みになっていました。

#### IV. 拡大教科書・副読本・副教材について

岡山盲学校は幼稚部の併設がない代わりに たんぽぽ学級という未就学児を対象とした訓練・教育相談を開設しています。そこで出会った保護者の声掛けでできた拡大写本の会が岡山には2つあり、私はくらしき拡大写本に呼んでいただきました。自分の子供の為に・同じように困っている子供の為にと発足し勉強会を重ね拡大教科書を作成できるようになっていきました。

娘は弱視学級で国語・算数・習字を取り出し授業を受け、他の教科は親学級で受けました。娘が拡大教科書を使うようになったのは小学校3年生からでした。1・2年生では適応範囲内でしたが明朝体だったので細く薄い感じはありました。漢字ドリルは文字が小さく弱視学級の先生がすべて拡大北°-をして下さいました。漢字のはね・はらい・とめは見分けるは難しくまた画数が増えると文字がつぶれて見え拡大したものが必要でした。拡大教科書は出版社のものとボランティア作成のものとの両方を使いました。拡大教科書は使用するに当たり見本を見て選ぶことができません。娘の場合は拡大写本の会で教科書を見せていただいていたので教育委員会へボランティア団体と教科を指定してお願いをしました。学年が上がるにつれ出版社の拡大本が増えていきました。3年生で岡山市・4年生で岡山県を学習するのに授業は副読本が中心となりましたが拡大本は無く拡大北°-をして使用していました。中学・高校になりますとワークブックがどの教科にもあり拡大北°-で対応をしたものもあります。数学はノートに式を写して計算をするため式の写し間違いが多く苦勞もしました。副教材・ドリル・ワークブックも義務教育の間だけでも拡大教科書と同じように大きな文字の物をそろえて頂ければ子供たちの心の負担が軽減されると思います。

ボランティア作成教科書は分冊が多くあり1冊の重さも負担なく音読をしていたと思います。巻末の漢字も分冊でしたので活用できていたと思います。ボランティアも良く研究をされており使いやすいものだったと思います。ところが、ほとんどの弱視児童生徒の関係者は、ボランティアの拡大本は見たことが無く存在すらご存じありません。皆さんボランティアグループの活動が広く周知されるとよいと思います。

#### V. 7年間出版社拡大本を使わしていただいていたお願いしたいことは

出版社の教科書には当時定価が書いてあり 高い教科書だね と言われました。弱視学級なので加配もあり税金をたくさん使っている意味合いの事もいわれました。そういうことを子供たちの中では不満に思う子もおりの原因の一つになっていました。

娘は中学生になり学校で一日に学習をする本・ノート・ワークブック・中学では英語・国語の辞書これらを背負って水筒・弁当・視覚補助具を別に持って白杖を持っての登下校をしていました。重い時で13kgのリュックを背負い歩いて登校していました。中学校では社会だけがボランティア作成本、残りの物が出版社の本でした。英語は授業を数日されてから、拡大教科書を使うのをやめます。

と言われ中学3年生まで先生が拡大紙<sup>①</sup>-をして下さいました。国語も「行」への対応がないので同様すぐに使用ができないと言われ普通の教科書をル<sup>②</sup>-A<sup>③</sup>使用で勉強しました。音楽の教科書は中学から出版社のものになりとても良い紙を使用されていることから開いてもすぐに閉じたり机から滑り落ちたりと扱いに困っていました。大きさも持ち運びに不便なので音楽室で3年間預かってもらってました。小学校ではポ<sup>④</sup>ラ<sup>⑤</sup>ソ<sup>⑥</sup>フ<sup>⑦</sup>イ<sup>⑧</sup>作<sup>⑨</sup>成<sup>⑩</sup>本<sup>⑪</sup>で大きな音符に歌詞がかいてありとても見やすかったけれど中学校は大きな本にはなったけれど紙に対して文字が小さくて細くて見えにくかったと言っております。

ここでお話をさせていただく事が決まり小学校中学校の弱視の子供達・保護者の方に拡大教科書の使いやすいいところ・使いにくいところを尋ねてみました。皆さん出版社の本を使われています。出版社の拡大教科書に対して重要な要望が多く是非子供たちの立場になって仕様を考え見直していただきたいことです。

文字が大きく読みやすいがとにかく重く、自宅での予習復習は欠かせませんが教科書が重いので置いて帰るということを耳にします。紙素材の選定・分冊を多くするなど極力持ち運びが楽になるようにお願いします。普通の教科書の厚みぐらいで分冊を考えてほしいとの声も出ています。

拡大教科書の文字の大きさも選択肢を増やしていただきたいです。読める文字と読みやすい文字の大きさは違います。

多くの弱視生徒また文字を読むことの苦手な弱視以外の障がいの生徒は文字が見えやすくなることで学習意欲も変化してくると思います。将来のために義務教育の中で身につけておかないといけない知識をつけるにはそれなりの努力が必要です。教科書は、その基盤を作る教材です。子供たちにお力添えをくださいますようお願いいたします。

## VI. 大学受験へ向けて

高校に入学してすぐに大学志望校を書かされました。生物学部のある大学を出し、夏休みの宿題ではオ<sup>①</sup>-プ<sup>②</sup>ソ<sup>③</sup>キ<sup>④</sup>ャ<sup>⑤</sup>ッ<sup>⑥</sup>パ<sup>⑦</sup>ス<sup>⑧</sup>にとりあえずお友達と行きました。部活もあり大学も絞り込めずにおり3年生の5月ごろから模擬講義やオ<sup>①</sup>-プ<sup>②</sup>ソ<sup>③</sup>キ<sup>④</sup>ャ<sup>⑤</sup>ッ<sup>⑥</sup>パ<sup>⑦</sup>ス<sup>⑧</sup>の情報をネ<sup>⑨</sup>ト<sup>⑩</sup>から集め申し込みをしました。娘は自分が視覚障がい者であること・資料は指定のホ<sup>⑪</sup>ィ<sup>⑫</sup>ト<sup>⑬</sup>数<sup>⑭</sup>で用意してもらいたいことをメールでお願いしました。大学では来年から施行される 障がい者差別解消法 の整備も始まっており丁寧な対応をして下さいました。受験をしたい大学が定まり入試課との話し合いを始めたのが7月でした。国立大学の措置は大学入試セ<sup>⑮</sup>ク<sup>⑯</sup>に準<sup>⑰</sup>ずることとなっています。娘が18Pか22Pが読みやすいと言い22Pをお願いしました。時間延長は、弱視は通常の1.3倍、全盲は1.5倍となっており、他に個人に合った措置申請をします。この申請は8月からできます。申請書を書くのにも私だけでは難しく広島大学の先生・高校の先生に確認を取りながらの作成でした。また、問題用紙は明朝体で作られており拡大をしても見えにくいことが分かりゴ<sup>⑱</sup>ツ<sup>⑲</sup>ク<sup>⑳</sup>体での用意はJ<sup>㉑</sup>ト<sup>㉒</sup>の面からも難しいとのことで通常の物を拡大したうえで、同じものをP<sup>㉓</sup>D<sup>㉔</sup>F<sup>㉕</sup>デ<sup>㉖</sup>-タ<sup>㉗</sup>にしi<sup>㉘</sup>p<sup>㉙</sup>a<sup>㉚</sup>d<sup>㉛</sup>に入れていただきました。i<sup>㉜</sup>p<sup>㉝</sup>a<sup>㉞</sup>d<sup>㉟</sup>で見えにくい指数などを自分で見える大きさまで拡大できるのはとても助かります。

国立・私立大学に関係なく見えやすい問題用紙のガ<sup>㉟</sup>ド<sup>㊱</sup>ラ<sup>㊲</sup>イ<sup>㊳</sup>を作<sup>㊴</sup>っていただければと思います。説明をする方もされる方も1からの説明でお互いを知るところから始まります。どこの大学へ行っても入学試験は同じ対応が受けられることを願います。本人が行きたい大学・なりたい職業が見つからないのは障がいがあるなしに関係なく今の子供達には色々な経験が不足しているからだと言われています。興味が無くても多くの事を経験させることにより面白さを見つけれられることができるので特に視覚障がいの子供達には周囲の大人達が積極的に経験の場を与えることが必要だと思えます。

## おわりに

### ① 本人の言葉から

娘は中学1年生から視覚障害の生徒を対象とした化学実験や IT 活用を体験できるキャンプに参加し全国に弱視・全盲のお友達を多く作る事ができました。また、幼いころからハンディキャップを持ったお友達が多くいました。

自分のことだけを見れば勉強や人間関係が大変で辛くて苦しいことが多いと思います。しかし、自分と同じように視覚障害を持っているお友達がいることによって情報交換や学校生活での苦勞を話したりすることによって大変なのは自分だけではない、もっと大変な努力をして頑張っている人がいることを知り色々なことに頑張れると娘は言っています。

### ② これまでに培った力で・・・な大人になってほしい。

最後に我が家では、幼い時からいつの日か自分の力で生きていけるようにと育ててきました。自分でできることは自分で、できないことを人をお願いすることは恥ずかしくないこととも言ってきました。娘にお友達が掛けてくれた言葉は

君は色々なことに大変だけど不幸じゃないね。

ハンディを持って普通高校で学校生活を送ることは本人にとってかなり大変なことだと思います。もしこの学校に自分と同じ視覚障がい生徒が受験をするときに 目が悪いと授業にはついていけないと先生方に思われないよう後輩たちの為にそれが自分の使命のように頑張っています。なぜ、娘が県立中高一貫校という進学校で勉強をしていくことができるのかと思うと、就学前の盲学校での訓練、幼稚園から高校までの先生方・お友達・保護者・ボランティアの方々のご配慮があったからこそだと思います。これから大学生・社会人へと娘自身で成長していかなければなりません。自分に社会に責任を持てる大人になり何かしら社会に恩返しができるよう願っています。